

1. 電波監視における基本体制（設備・人員）の強化

- 無線機器の需要拡大に伴い、干渉源としての通信機器についてどういったものをターゲットにしているのか。（田久主任代理）
→特定の通信機器を対象とするのではなく、高周波数帯の電波利用拡大等に伴う監視体制や手法が作業班の検討スコープとなり、現時点では無線システムを限定せず高周波数帯等に対する対応ということで幅広く検討いただきたい。（事務局）
- 高周波数や移動監視を効率的に実施するために、パルス的な妨害波を発見できるリアルタイムスペクトラムアナライザを用いた監視を行った方が良いのではないか。（佐野構成員）

2. NTN時代の電波監視の在り方

- メガコンステレーションの監視に対しては、今後は多数の衛星をどのように補足・監視するかのスケジューリングも重要な課題となるであろう。電子走査アンテナの効率的な活用を求めたい。（山本構成員）
- JAXAでは広帯域に受信できる人工衛星の打ち上げを計画しており、今後、総務省における監視活動に役立てるよう本作業班にて紹介したい。（橋本構成員）

3. 電波法の基準に適合しない無線機器（不適合無線機器）への対策

- ドローンの無線機器に関して、不適合無線設備や無線免許不所持の機器を防ぐための方策を工夫したほうが良いのではないか。（山本構成員）
→現状、ドローンに対する電波的な監視は技術的に難しいところもあり、今後の課題として、どのような監視設備・体制を構築するかを作業班にて検討させていただきたい。（事務局）